

		卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)
学部全体		文学部は、学士課程教育において、「幅広く豊かな教養と人文・社会科学に関する確かな専門的知識を有し、創造的な知性を持って自ら課題を発見し解決する実践的な能力および21世紀を生きる人間に必要なグローバルな視野と市民的公共心を備え、社会に貢献できる」人材の育成を目標としています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を取得した人に学士(文学)の学位を授与します。	文学部は、現代の人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方を論理的に分析できる人材、情報コミュニケーションのエキスパート兼リーダーを養成するために、各学科・コースの学問体系を基盤とした教育課程を編成しています。3・4年次には、高度な専門的授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保証するように編成しています。	文学部では次のような人を求めます。 ・これまでに幅広く学習に取り組み、本学部の授業を受けることができる学力を有する人。 ・人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方、情報コミュニケーションのあり方、現代社会の課題解決に関心が高い人。 ・専門的知識の習得に意欲をもち、習得した知識・能力を将来の進路に活かそうとする意欲が高い人。
総合人間学科	人間科学コース	総合人間学科人間科学コースは、学士課程教育において、人間や人間関係についての知見を持ち、目先の利害にとらわれず、教養ある批判的判斷のできる人材の育成を目標とするとともに、それぞれの履修モデルの特性を活かして、論理的判斷力(哲学)や実証的判斷力(心理学)を養い、問題解決への柔軟で大胆な発想をすることができ、状況に応じた行動がとれる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士(文学)の学位を授与します。 ・人間科学(哲学・心理学)に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。 ・論理的思考、実験による分析、学外での調査や実習などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。 ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。	体系性:人間科学(哲学・心理学)の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。 段階性:基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。 個別化(進路への対応):3・4年次には人間科学(哲学・心理学)の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、進学あるいは専門職への就職の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。	
	社会人間学コース	総合人間学科社会人間学コースは、学士課程教育において「社会的存在としての人間」という認識から出発し、現代における人間と人間を取り巻く社会的現象にかかわる人材の育成を目標とします。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士(文学)の学位を授与します。 ・社会人間学(倫理学・社会学・文化人類学)に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。 ・論理的思考、実験による分析、学外での調査や実習などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。 ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。	体系性:社会人間学(倫理学・社会学・文化人類学)の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。 段階性:基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。 個別化(進路への対応):3・4年次には社会人間学(倫理学・社会学・文化人類学)の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、進学あるいは専門職への就職の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。	総合人間学科では次のような人を求めます。 1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学科の授業を受けることができる学力を有する人。とくに現代社会、倫理、地理、国語、外国語の学力に優れた人。 2. 人間や人間関係への関心と探求心をもち、人間に関わる問題に実際に取り組んでいきたいと考えている人。 3. 現代社会のかかえる諸問題や日本及び世界各地の社会や文化に関心をもち、それらを自分で分析する力をつけたいと考えている人。 4. 地域社会や地域文化に関心をもち、それらがかかえる問題に実際に取り組んでいきたいと考えている人。
	地域科学コース	総合人間学科地域科学コースは、学士課程教育において「地域社会の生活主体としての人間」という観点から、人間とその地域的環境(社会文化的・自然的環境)について多面的・有機的に理解を深め、現代の地域社会が抱える諸問題の解決に実践的に取り組む人材の育成を目標とします。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士(文学)の学位を授与します。 ・地域科学(地域社会学・民俗学・地理学)に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。 ・論理的思考、実験による分析、学外での調査や実習などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。 ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。	体系性:地域科学(地域社会学・民俗学・地理学)の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。 段階性:基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。 個別化(進路への対応):3・4年次には地域科学(地域社会学・民俗学・地理学)の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、進学あるいは専門職への就職の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。	

		卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)
歴史学科	歴史資料学コース	<p>歴史学科歴史資料学コースは、学士課程教育において、文献史料や考古資料を的確な手法・技術で調査・分析する作業を通じて過去の歴史を読み解き、さらに人間や社会について真摯に考察するとともに、現代を含めた時代の本質を正しく理解したうえで現代社会の諸問題に対応し、発言できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士(文学)の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本史学・考古学に関する専門的な知識や理論、技術を駆使して、主体的に史資料を調査・収集し、的確に分析・論述することができる。 ・歴史学全般の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示を行うことができる。 ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。 	<p>体系性: 日本史学・考古学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。</p> <p>段階性: 基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。</p> <p>個別化(進路への対応): 2年次よりコースを構成する履修モデルに即した基礎的な専門科目を、3・4年次にはより高度な専門的な授業科目を置き、コース内での横断的科目履修に配慮しつつ、将来の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。</p>	<p>歴史学科では次のような人を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学科の授業を受けることができる学力を有する人。とくに日本史、世界史、現代社会、国語、外国語の学力に優れた人。 2. 歴史を学ぶことを通じて、人間や人間社会の本質と可能性を探究し、新しい時代と社会を切り開いていこうとする意欲をもった人。 3. 国際交流や国際協力等の実践的活動に関心を持ち、歴史という長期的視点から、異文化社会の本質を理解したいと考えている人。 4. 史料解読や遺跡発掘調査といった高度の技能を身につけ、より高い専門性をもって、文化財行政や歴史教育に携わりたいと考えている人。
	世界システム史学コース	<p>歴史学科世界システム史学コースは、学士課程教育において、史料の総合的分析力に依拠した論理的実証力を基盤に、アジアと欧米の歴史展開や社会思想を地域横断的かつ総合的に分析・討論することを通じて、異なる社会や文化に対する理解を深め、広い視野と柔軟な思考力をもって現代社会の諸問題に対応し、発言できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士(文学)の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア史学・西洋史学・近現代社会思想史学に関する専門的な知識や理論、外国語(欧米諸語、漢文、中国語等)運用能力を駆使して、主体的に史料を調査・収集し、的確に分析・論述することができる。 ・歴史学全般の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示を行うことができる。 ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。 	<p>体系性: アジア史学・西洋史学・近現代社会思想史学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。</p> <p>段階性: 基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。</p> <p>個別化(進路への対応): 2年次よりコースを構成する履修モデルに即した基礎的な専門科目を、3・4年次にはより高度な専門的な授業科目を置き、コース内での横断的科目履修に配慮しつつ、将来の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。</p>	
文学科	東アジア言語文学コース	<p>文学科東アジア言語文学コースは、学士課程教育において、東アジアの伝統文化や現代的課題に対して幅広い目配りの出来る豊かな専門的知識と理解力を習得し、東アジアの言語や文学、文化に関して新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士(文学)の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東アジアの言語や文学、文化の基本的概念・理論について説明できる。 ・東アジアの言語や文学、文化に関する知見を用いて、今日の課題を見出し、解決法を提案できる。 ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。 	<p>体系性: 日本語日本文学および中国語中国文学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。</p> <p>段階性: 基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。</p> <p>個別化(進路への対応): 3・4年次には日本語日本文学および中国語中国文学の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成しています。</p>	
	欧米言語文学コース	<p>文学科欧米言語文学コースは、学士課程教育において、英語・ドイツ語・フランス語の運用能力を高めるとともに、各言語圏の言語、文学、文化、社会についての知見を幅広く獲得し、自国の文化や制度に対する相対的な視点を持ち、英語・ドイツ語・フランス語やそれらの言語による文学、文化に関して新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士(文学)の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)の基本的概念・理論について説明できる。 ・欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)に関する知見を用いて、今日の課題を見出し、解決法を提案できる。 ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。 	<p>体系性: 欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。</p> <p>段階性: 基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。</p> <p>個別化(進路への対応): 3・4年次には欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成しています。</p>	<p>文学科では次のような人を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学科の授業を受けることができる学力を有する人。とくに国語や外国語の学力に優れた人。 2. 日本を含むいろいろな国の言語、文学、文化に強い関心を持ち、それらを学ぶことを通じて人類の文化や現代社会に対する理解を深めたい人。 3. 英語をはじめとする外国語の運用能力と異文化を正しく理解する能力を身につけ、国際的な舞台で活動したい人。 4. 言語や文学に対する幅広い知識と的確な分析・表現能力を活かし、教育・研究に従事したい人。
	超域言語文学コース	<p>文学科超域言語文学コースは、学士課程教育において、人類の言語文化及びその精華である文学作品の諸相に関して、その相互作用を複眼的・国際的に考察する視野を持ち、比較文化の視座から新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士(文学)の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較文学・比較文化の基本的概念・理論について説明できる。 ・比較文学・比較文化に関する知見を用いて、今日の課題を見出し、解決法を提案できる。 ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。 	<p>体系性: 比較文学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。</p> <p>段階性: 基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。</p> <p>個別化(進路への対応): 3・4年次には比較文学の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成しています。</p>	

		卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)
コミュニケーション情報学	コミュニケーションコース	<p>コミュニケーション情報学コースは、学士課程教育において、高次のコミュニケーション能力、外国語運用能力、メディア運用能力を養成することで、情報を読み解き、発信できる能力を高め、グローバル化・情報化が進む現代社会において先導的役割を担う自発性と創造性に優れた人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士(文学)の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションに関連する身近な問題に関心を持ち、課題を設定し、具体的な解決策を提案できる。 ・異文化理解や異文化交流・国際交流に関心を持ち、英語で基本的な対話やプレゼンテーション、ディベートができる。 ・最新の情報メディア技術を活用し、情報の収集・分析、編集・加工、発信・交換ができる。 	<p>体系性: コミュニケーション情報学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。</p> <p>段階性: 基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。</p> <p>個別化(進路への対応): コースを構成する各教育分野の専門的な授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保障するよう編成しています。</p>	<p>コミュニケーション情報学科では次のような人を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学科の授業を受けることができる学力を有する人。とくに英語や情報の学力に優れた人。そうした能力やスキルを高め、卒業後に地域社会や国際社会に貢献することへの関心が高い人。 2. 理論だけでなく、自らの体験を通して、新聞・放送・広告といったマスメディア、インターネットに代表される情報技術のしくみと運用など、コミュニケーションと情報に関するさまざまな事象について考えたい人。 3. オーラルコミュニケーションを中心に、英語によるディスカッションやディベート等に対応できる高いレベルの実践的英語運用能力を習得したい人。
	現代文化資源学コース	<p>現代文化資源学コースは、学士課程教育において、有形・無形のさまざまな文化資源を収集・分析・整理する能力、外国語運用能力、メディア運用能力を養成することで、文化資源のもつ多面的な価値を理解し、次世代が活用しうる資源として発信できる能力を高め、価値の多様化が進む現代社会において新たな価値を創造できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、次に示す資質・能力を身につけた人に学士(文学)の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域固有の言語や特色ある文化を記録することについて深い関心を持ち、記録のもつ価値についてわかりやすく説明できる。 ・異文化交流・国際交流に関心をもち、文化的背景の異なる人に対して、自分の知っている文化について英語で伝えることができる。 ・情報メディアを通じて、画像・動画や音声を含む文化に関するさまざまな資料を活用しやすい形で発信できる。 	<p>体系性: 現代文化資源学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。</p> <p>段階性: 基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。</p> <p>個別化(進路への対応): コースを構成する各教育分野の専門的な授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保障するよう編成しています。</p>	

学修成果（文学部）

総合人間学科			歴史学科	
人間科学コース	社会人間学コース	地域科学コース	歴史資料学コース	世界システム史学コース
豊かな教養 ・文化や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。	豊かな教養 ・文化や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。	豊かな教養 ・文化や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。	豊かな教養 ・歴史や文化・社会に対する高い関心と一般的理解をもっている。 ・自然・生命に関する基本的な知識および関心をもっている。	豊かな教養 ・歴史や文化・社会に対する高い関心と一般的理解をもっている。 ・自然・生命に関することに関心と基本的な理解・知識をもっている。
確かな専門性 ・人間科学(哲学・心理学)の基本的理念・概念について説明することができる。 ・人間科学(哲学・心理学)における研究方法を使用することができる。 ・人間科学(哲学・心理学)の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。	確かな専門性 ・社会人間学(倫理学・社会学・文化人類学)の基本的理論・概念について説明することができる。 ・社会人間学(倫理学・社会学・文化人類学)における研究方法を使用することができる。 ・社会人間学(倫理学・社会学・文化人類学)の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。	確かな専門性 ・地域科学(地域社会学・民俗学・地理学)の基本的理論・概念について説明することができる。 ・地域科学(地域社会学・民俗学・地理学)における研究方法を使用することができる。 ・地域科学(地域社会学・民俗学・地理学)の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。	確かな専門性 ・歴史学の基本的な理論・概念について理解し、説明することができる。 ・日本史学・考古学の専門的な知識や理論、概念について理解し、説明することができる。 ・日本史学専攻者については古文書・古記録を整理・読解・分析する専門的な能力をもつことができる。 ・考古学専攻者については遺跡・遺構・遺物を調査・整理・分析する専門的な能力をもつことができる。 ・日本史学・考古学研究に必要な最新動向や情報を、主体的に調査・収集ができる。 ・日本史学・考古学に関連した専門性の高い学術論文を読解することができる。 ・日本史学・考古学に関する確かな専門性に基づき、柔軟な発想と論理的思考、説得力のある表現を用いて学術的文章を作成することができる。	確かな専門性 ・歴史学の基本的な理論・概念について理解し、説明することができる。 ・歴史学(アジア史・西洋史・近現代社会思想史)の専門的な知識や理論、概念について理解し、説明することができる。 ・歴史学(アジア史・西洋史・近現代社会思想史)における研究方法を使用することができる。 ・歴史学(アジア史・西洋史・近現代社会思想史)研究に必要な最新動向や情報を、主体的に調査・収集ができる。 ・歴史学(アジア史・西洋史・近現代社会思想史)に関連した抽象度の高い学術論文を読解することができる。 ・歴史学(アジア史・西洋史・近現代社会思想史)研究に必要な外国語文献(英語、漢語、中国語等)を読解できる。
創造的な知性 ・人間科学(哲学・心理学)に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。	創造的な知性 ・社会人間学(倫理学・社会学・文化人類学)に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。	創造的な知性 ・地域科学(地域社会学・民俗学・地理学)における知見を用いて現実の課題を見出し解決方法を提案することができる。	創造的な知性 ・歴史学全般および日本史学・考古学の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示をすることができる。	創造的な知性 ・歴史学(アジア史・西洋史・近現代社会思想史)の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示をすることができる。
社会的な実践力 ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。	社会的な実践力 ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。	社会的な実践力 ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。 ・社会に参加し意欲的に適応でき、公共心をもって行動できる。	社会的な実践力 ・柔軟かつ論理的な思考力を基盤に、過去の社会との比較を通じて、現代社会を批判的に検証し、相対化することができる。 ・文化財の保護・活用および博物館活動に寄与することができる。	社会的な実践力 ・柔軟かつ論理的な思考力を基盤に、過去の社会との比較を通じて、現代社会を批判的に検証し、相対化することができる。 ・市民社会の一員として、人権問題や社会的マイノリティにかかる問題に理解と関心をもつことができる。
グローバルな視野 ・外国語の文献を読解することができる。 ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解をもち、広い視野から物事を理解できる。	グローバルな視野 ・外国語の文献を読解することができる。 ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解をもち、広い視野から物事を理解できる。	グローバルな視野 ・外国語の文献を読解することができる。 ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解をもち、広い視野から物事を理解できる。	グローバルな視野 ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解をもち、広い視野から物事を理解できる。	グローバルな視野 ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解をもち、広い視野から物事を理解できる。
情報通信技術の活用力 ・インターネットを活用して情報を収集し、その的確な分析、コミュニケーションを行うことができる。	情報通信技術の活用力 ・インターネットを活用して情報を収集し、その的確な分析、コミュニケーションを行うことができる。	情報通信技術の活用力 ・インターネットを活用して情報を収集し、その的確な分析、コミュニケーションを行うことができる。	情報通信技術の活用力 ・インターネットを活用して情報を収集し、その的確な分析、コミュニケーションを行うことができる。	情報通信技術の活用力 ・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析、コミュニケーションを行うことができる。
汎用的な知力 ・相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。 ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。	汎用的な知力 ・相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。 ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。	汎用的な知力 ・相手を理解し、相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えて、よい対人関係を作ることができる。 ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。 ・常に向上心をもって自己開発能力、キャリア開発能力を発揮することができる。	汎用的な知力 ・相手にわかりやすく、相手の関心を引きつけるような話し方で、意見や情報を伝え、他者と議論やコミュニケーションをすることができる。 ・豊かな表現力と明解な論理・構成力を用いて、説得力のある明晰な文章を作成することができる。 ・共通の課題に対してチームで取り組み、共同作業、議論によって、問題解決を図ることができる。	汎用的な知力 ・相手にわかりやすく、相手の関心を引きつけるような話し方で意見や情報を伝え、相手と議論やコミュニケーションをすることができる。 ・豊かな表現力と明解な論理・構成力を用いて、説得力のある明晰な文章を作成することができる。 ・共通の課題に対してチームで取り組み、共同作業(議論)によって、問題解決を図ることができる。

学修成果（文学部）

文学科			コミュニケーション情報 学科	
東アジア言語文学コース	欧米言語文学コース	超域言語文学コース	コミュニケーション情報学コース	現代文化資源学コース
豊かな教養 ・文化・社会に関する一般的な理解と関心を持っている。 ・自然・生命に関する基本的な理解と広い視野を持っている。	豊かな教養 ・文化・社会に関する一般的な理解と関心を持っている。 ・自然・生命に関する基本的な理解と広い視野を持っている。	豊かな教養 ・文化・社会に関する一般的な理解と関心を持っている。 ・自然・生命に関する基本的な理解と広い視野を持っている。	豊かな教養 ・人や社会、自然や生命に対する幅広くかつ深い関心をもっている。	豊かな教養 ・人や社会、自然や生命に対する幅広くかつ深い関心をもっている。
確かな専門性 ・東アジアの言語や文学、文化の基本的理念・概念について説明することができる。 ・東アジアの言語や文学、文化における研究方法を使用することができる。 ・東アジアの言語や文学、文化の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。	確かな専門性 ・欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)の基本的理論・概念について説明することができる。 ・欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)における研究方法を使用することができる。 ・欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。	確かな専門性 ・人間のコミュニケーション能力に関する基本的理解と広い視野をもっている。 ・比較文学・比較文化の基本的理論・概念について説明することができる。 ・比較文学・比較文化における研究方法を使用することができる。 ・文学・文化の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。	確かな専門性 ・コミュニケーション情報学の基本的な理論及び概念を説明できる。 ・コミュニケーション情報学における研究方法を使用することができる。 ・コミュニケーション情報学の最新動向について自律的に学ぶことができる。 ・コミュニケーションに関連する身近な問題に関心を持ち、課題を抽出し、具体的な解決法を提案できる。 ・文献や記事を読んで内容を理解し、論点を論理的かつ簡潔に要約できる。 ・調査の企画、調査対象者との交渉、実行、報告書作成など一連の作業ができる。 ・相手に分かり易く、平易な論理で、相手の関心に沿った話し方で情報や意見を伝えることができる。	確かな専門性 ・現代文化資源学の基本的な理論及び概念を説明できる。 ・現代文化資源学における研究方法を使用することができる。 ・現代文化資源学の最新動向について自律的に学ぶことができる。 ・現代文化資源学に関連する身近な問題に関心を持ち、課題を抽出し、具体的な解決法を提案できる。 ・地域固有の言語や特色ある文化について関心を持ち、これを説明する資料を収集し、適切な方法で整理して記録することができる。 ・地域固有の言語や特色ある文化について、そのもつ特徴をより広い視点から説明することができる。 ・言語や文化についての資料を収集する目的をわかりやすく説明した上で、協力者を探し、フィールドワーク調査を実施することができる。
創造的な知性 ・東アジアの言語や文学、文化に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。	創造的な知性 ・欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)を応用して、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。	創造的な知性 ・比較文学・比較文化における現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。	創造的な知性 ・複眼的・多面的な視点で柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討できる。 ・社会で生じる諸問題に関する理解と関心を持ち、課題を抽出し、具体的な解決法を提案できる。	創造的な知性 ・固有の文化に関する諸事象を尊重するだけでなく、次の世代が活用しうる文化資源として捉え直すことができる。
社会的な実践力 ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。	社会的な実践力 ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。	社会的な実践力 ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。 ・社会に参加し意欲的に適応でき、公共心をもって行動できる。	社会的な実践力 ・自主的に社会や組織に積極的に参加し、自分の位置を見つけ、貢献できる。 ・共通の課題に対してグループで取り組み、互いの意見を尊重しながら、問題を解決できる。 ・明晰な論理と説得力のある表現を用いて、ビジネス現場で通用する文章を作成できる。	社会的な実践力 ・地域固有の文化の現状とその地域の事情を把握した上で、地域固有の文化を将来どのように活用できるかをわかりやすく提案することができる。 ・多様な価値の存在を認識し、価値観の違いが生み出す問題をどのように回避できるかを提案することができる。
グローバルな視野 ・外国語の文献を読解することができる。	グローバルな視野 ・外国語の文献を読解することができる。	グローバルな視野 ・複数の外国語による文献を読解することができる。 ・外国語による簡単なプレゼンテーションを行うことができる。	グローバルな視野 ・日本文化に対する理解を深めるとともに、異文化理解や異文化交流、国際交流に関心を持ち、広い視野から物事を理解できる。 ・国際社会で生じる諸問題に関する基本的な理解と関心を持っている。 ・英語の文献やニュース、記事を読解し、情報の収集・分析に足る基本的な英語運用能力がある。 ・英語で基本的な対話やプレゼンテーション、ディベートができる。	グローバルな視野 ・地域固有の言語や特色ある文化がどのように資源として活用されているかという観点から、諸外国の事情に関心を持ち、情報を収集することができる。 ・日本の地域固有の言語や特色ある文化について、文化的背景の異なる人々がどのような関心をもっているかに注意を払い、適切に情報を発信することができる。
情報通信技術の活用力 ・インターネットやeメールを含むITを使用し、情報の収集・分析や交換を行うことができる。	情報通信技術の活用力 ・インターネットやeメールを含むITを使用し、情報の収集・分析や交換を行うことができる。	情報通信技術の活用力 ・インターネットやeメールを含むITを使用し、情報の収集・分析や交換を行うことができる。	情報通信技術の活用力 ・ビジネス現場で要求されるレベルで、情報通信機器及びソフトを使いこなすことができる。 ・最新の情報メディア技術を活用し、情報の収集・分析、編集・加工、発信・交換ができる。 ・最新の情報メディア技術を活用し、文字に加え音声・映像による情報の作成、発信ができる。	情報通信技術の活用力 ・デジタルアーカイブの概念について理解し、さまざまなデジタルアーカイブを活用できる。 ・デジタルアーカイブの仕組みについて理解し、目的に応じたデジタルアーカイブを立案できる。
汎用的な知力 ・相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。 ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。	汎用的な知力 ・相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。 ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。	汎用的な知力 ・相手を理解し、相手に分かりやすく、相手の関心を惹き付ける話し方で、情報や意見を伝えて、よい対人関係を作ることができる。 ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。 ・常に向上心をもって自己開発能力、キャリア開発能力を発揮することができる。	汎用的な知力 ・ロジカルシンキング、クリティカルシンキングができる。 ・向上心を常にもち、自発的に自らの能力及びキャリアの開発ができる。	汎用的な知力 ・ロジカルシンキング、クリティカルシンキングができる。 ・向上心を常にもち、自発的に自らの能力及びキャリアの開発ができる。